

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 10 日現在

機関番号：24402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21730455

研究課題名（和文） 東アジアにおけるホームレス支援モデルの構築

研究課題名（英文） Development of a Homeless Assistance Model in East Asia

研究代表者

全泓奎（JEON HONG GYU ）

大阪市立大学・都市研究プラザ・准教授

研究者番号：00434613

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバル化やそれに伴う産業再編によって、都市の再構築が進められてきた東アジアにおけるホームレス支援モデルの類型化を図っていくことを目的としている。そのため、東アジアの先進都市におけるホームレス化と社会的排除との関連性、住宅困窮層に対する居住支援や社会的企業などに関する評価を行うと共に、東アジアの包摂都市に向けたワークショップを企画、実行し、今後も研究や支援手法、政策的な連携が期待できる交流ネットワークを継続させていく基盤構築に資することができた。

研究成果の概要（英文）：This research seeks particular patterns in the East-Asian homeless assistance model. This model has been developed amidst industrial restructuring and urban remodeling in line with globalization. For this reason, this research has engaged in onsite surveying to explore in an empirical and comprehensive way the relation between the increase in homelessness and social exclusion in East-Asian developed cities. This research has realized to initiate workshop on developing ways for an East-Asian inclusive city by connecting research to practical assistance measures, and also into policy making. As for the results, we have assessed and analyzed from our surveys the impact of housing assistance and social enterprises in relation to the diversification of relating policies and means of assistance for the housing poor and homeless.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：貧困・社会的排除・差別・ホームレス支援

1. 研究開始当初の背景

90年代に入り急激な経済的・社会的変化の中、それによるしわ寄せを受ける人々が急増した。中でもホームレスの人々の存在は、東アジアの先進都市が共通的に抱えている問題であり、これまで様々な観点からのアプローチが、それぞれの国や地域の政策方向や民間支援団体等が置かれている社会的な状況の違いに基づき、多様な形で展開されてきた。ホームレス化に至るまでのメカニズムや、それによるプロセスは異なっており、中には海外の移住労働者のホームレス化が危惧される場合等、新たな社会的課題への対応が急がれる例もあった。本研究は、このような経済社会的な背景の下で、とりわけ東アジアの先進都市におけるホームレス問題の現状の検討とその支援モデルの相互比較の必要性を背景として研究を始めることとなった。

2. 研究の目的

東アジアの先進都市が共通的に抱えるホームレス問題への現状を同定し、かつそれに対応する政策環境の築かれ方、そして民間支援のあり方等を比較検討することを通じて、東アジアにおけるホームレス支援モデルの類型化を図っていくことを目的とする。さらにこのような研究活動を推進することから形成されるさまざまな研究や人材のプールを最大限生かし、それぞれの経験が共有できる

ようなプラットフォームの構築にも資するきっかけとなることを目指す。

3. 研究の方法

東アジアの先進都市において90年代以降急増したホームレス化と社会的排除との関連性について、実証的な研究、実地調査・文献及び関係者へのインタビュー、その他の資料収集等、総合的な調査手法を包括的に用いながら調査に取り組んできた。

4. 研究成果

東アジアの先進都市における住宅困窮層及び社会的不利地域についての比較検討を行い、各種書籍及び学術誌に研究成果を報告してきた。さらに、住宅困窮層及び社会的不利地域の再生に向けた都市間のネットワークを図るため、東アジアの包摂都市に向けたワークショップを企画し、実行させ、第1回目は、昨年度に台北にて、第2回目は今年の2月にソウルで行い、第3回目のワークショップも来年2月に日本での開催を各国が合意しており、東アジアにおけるインクルーシブシティネットの構築に向けた実践知のプラットフォームの形成に資することができたことは大きな成果の一つと言えよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計14件)

1 全泓奎、2012 Jan.、「韓国ホームレス福祉法の制定と包括的な支援」、『ホームレスと社会』、査読無、(Vol.5)、pp.82-90

2 全泓奎、「韓国におけるワーキングホームレスの現状と居住福祉の課題」、『総合社会福祉

研究』、査読無、(39号)、2011、総合社会福祉研究所、75-84

3 全泓奎、「韓国におけるホームレス支援法—その成立背景と特徴—」、『福祉の広場』、2011年7月号、査読無、2011、40-43

4 全泓奎他、社会的な不利地域における共生型まちづくりに関する研究、*住宅総合研究財団論文集*、査読無、No. 37、2011、49-60

5 Toshio MIZUUCHI, Hong Gyu JEON、The New Mode of Urban Renewal for the Former Outcaste Minority People and Areas in Japan、*Cities*、査読有、Vol. 27, Supplement1、2010、25-34

6 全泓奎、社会的排除に抗しうる「自立型の福祉社会システム」の可能性—ビッグイシュー名古屋ネットを中心として—、ホームレスと社会、査読有、No. 2、2010、64-71

7 全泓奎、韓国におけるワーキングホームレスの現状、福祉のひろば、査読無、2010年6月号、2010、68-69

8 全泓奎、日本の低所得層に対する住宅政策の貧困、第9回中日韓居住問題国際会議論文集、査読無、No. 9、2010、1-7

9 南垣碩・全泓奎、低所得世帯に対する居住支援モデルの模索：韓国の住居福祉センター活動分析を中心として、東亜細亜居住学会論文集安居楽業、査読無、第6集、2010、187-192

10 全泓奎、韓国住宅政策の最前線：買い上げ賃貸住宅政策への軌跡、建築とまちづくり、査読無、No. 389、2010、19-24

11 Hong Gyu Jeon、Inclusionary Area Regeneration for Socially Disadvantaged Areas: Flophouse areas in Seoul, Korea, The International Symposium on City Planning, 査読有、Sep. 2009 in Taiwan、130-139.

12 全泓奎、「韓国における社会的な不利地域の現状と課題」、『月刊住宅着工統計』、査読無、2009年8月号、pp. 6-11

13 Hong Gyu JEON、Geerhardt KORNATOWSKI, Won Seok NAM, Housing Support and Community-based Regeneration Strategies for Socially Disadvantaged Areas in Seoul, Osaka City University URP GCOE Working Paper Series、査読無、No. 5 May. 2009、全20頁

14 Toshio Mizuuchi, Hong Gyu Jeon、Housing Aid for the Homeless in Japan and South Korea, Osaka City University URP GCOE Working Paper Series、査読無、No. 4 April. 2009、全12頁

[学会発表] (計8件)

1 全泓奎、「社会的な不利地域における地域再生の課題：同和地区まちづくりの現在と展望」、2012 Feb.、『第2回東アジアインクルーシブシティネットワークワークショップ』、321-337、韓国・ハイソウルユースホステル

2 全泓奎、「社会的な不利地域のインクルーシブな再生に向けて」、『第10回韓日中国際居住問題研究会議発表論文集』、査読無、2011、47-52、韓国国立慶尚大学校

3 全泓奎、稲田七海、全昌美、南垣碩、複合的居住支援によるホームレス支援の新たな方向の模索：ホームレス地域生活移行支援事業を中心に、日韓ホームレス研究会、2010年7月9日、韓国・ソウル・韓国保健社会研究院

4 全泓奎・稲田七海・全昌美・平川隆啓、日韓における住宅困窮層への包摂的な居住支援モデルの構築に関する比較研究

その1 研究の概要及び利用者の居住ニーズ、日本建築学会、2010年9月10日、富山大学

5 平川隆啓・全泓奎・全昌美・稲田七海、日韓における住宅困窮層への包摂的な居住支援モデルの構築に関する比較研究 1 その2 事業受託団体による支援の実態と課題、日本建築学会、2010年9月10日、富山大学

6 全昌美・全泓奎・稲田七海・平川隆啓・多治見左近、日韓における住宅困窮層への包摂的な居住支援モデルの構築に関する比較研究 その3 韓国における複合的なホームレス居住支援、日本建築学会、2010年9月10

日、富山大学

7 Geerhardt Kornatowski, Hong Gyu JEON,
Drawing on Local Resources to Regenerate
Korean Flophouse Districts: Possibilities
for an Alternative Housing Safety Net, The
Asian Planning Schools Association (APSA),
査読有、Nov. 2009 in Ahmedabad, .1-13

8 全昌美・全泓奎・稲田七海・南垣碩、「日本
国東京都におけるハウジングファースト施
策における評価と可能性：ホームレス地域生
活移行支援事業を中心として」、韓国住居学
会、2009、126-131、韓国ソウル大学校
〔図書〕(計5件)

1 全泓奎・ビッグイシュー名古屋ネット編、
『地域密着型社会的企業の挑戦と課題：ビ
ッグイシュー名古屋ネットの歩みから見た日
本のホームレス支援モデルの研究』、大阪市
立大学都市研究プラザ、2012年3月、全95
頁

2 全泓奎、「住宅」と「サービス」との複合
化による居住困窮層支援」、外山 義・野口定
久・武川正吾編、『居住福祉学』、有斐閣、
2012、218-220

3 全泓奎、法律文化社、「韓国における野宿生
活者と居住支援」『路上に生きる一すぐそこ
にある貧困』、2011、229-234

4 全泓奎・稲田七海・全昌美・南垣碩、第一
住宅建設協会、日韓における住宅困窮層への
包摂的な居住支援モデルの構築に関する比
較研究、2010、全88頁

5 全泓奎、「ソウル市における社会的な不利地
域の居住問題」、日本住宅会議編、『格差社会
の居住貧困：住宅白書2009-2010』、2009年、
321-326

6. 研究組織

(1) 研究代表者

全泓奎 (JEON HONG GYU)

大阪市立大学・都市研究プラザ・准教授

研究者番号：00434613

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：